

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100188
法人名	株式会社 創寿会
事業所名	グループホーム ゆりの里
所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下田島19658番地1 (電話)0985-72-0680
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 5 月 30 日

【情報提供票より】(21年 5 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 7.175 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000~ 31,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費200/円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1, 150	円	

(4) 利用者の概要(5 月10 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	87.2 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎脳神経外科 恒吉歯科 御殿下医院 さいとう医院 日高医院 郡司眼科 中里歯科 野辺整形外科・内科医院 春田耳鼻咽喉科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小規模多機能施設を併設しており、利用者は日常的に行き来をして開放的である。利用者の方が「第二の家」として安心して暮らせ、生きる夢を持って頂けるように、利用者の尊厳を守り、よりよい、利用者の行動をストップさせないケアに取り組んでおり、利用者の方の表情は穏やかである。開設当初から地域貢献に取り組んでおり、現在、地域と施設が連携して、地域の高齢者を支援できるように「ゆりの里応援団」を創設し活動に熱意をもって取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、全職員の自己評価の実施と全職員での改善への取り組み、家族会への第三者の参加、職員の経験年数・得意分野・職務内容を加味した職員研修の参加、同業者との交流の機会の確保実施については、改善に向けて着実に取り組まれている。現状に即した介護計画作成の見直しについてはさらに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で取り組み、代表者と常時話し合い改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地区の代表者、家族が出席して2か月に1回開催している。地域の高齢者等から提案された問題点等も検討し、毎週日曜日の「何でも相談会」を継続している。行政担当職員に出席を依頼しているが、常時の出席は少ないため、今後さらなる働きかけを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族から意見が出やすいように、無記名のアンケートを定期的の実施したり、ホームの中で話し合いケアの改善をしている。また、家族会は年1回だったのが、現在年2回開催し意見を受け止めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは、近隣の方々から理解、協力が得られるように「ゆりの里便り」の地区回覧、小学校の体験学習の受け入れ、老人会参加、慰問に取り組み、機会あるごとにホームの紹介、地域との連携に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ノーマライゼーション精神の追及」として利用者の尊厳を守り、利用者の願いや希望を受け止め、利用者から「ただいま」といわれるような居心地のよい場所をめざした理念である。地域とのつながりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者は職員と会議・ミーティング等で理念を共有している。職員は、「家族から利用者を安心して任せていただけのようなホームにしたい」と利用者が気持ちよく明日が迎えられように利用者に寄り添っている。理念を具体化したケアに取り組み始めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、自治会・老人会に参加している。「ゆりの里便り」、「独居高齢者宅の訪問・ごみ出し」、「介護のなんでも相談会」を継続している。今後は地域によって支えられる、地域のネットワークのモデル作りに取り組み、地域で認知症講座を行なっていく計画である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義とねらいについて全職員で、全体会、施設の中で話し合いを行っている。改善計画により、今年度からは職員(パート職員含む)の研修計画、外部研修にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、今年からは地域包括支援センターの職員が1年に1回出席してもらえるようになった。		行政からの出席が、常時少ないため、今後さらなる働きかけを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者は定期的に行政の担当者を訪問し、情報提供状況説明を行なっている。ホームの会議等に担当職員の出席を求める場合は、事前に出席依頼をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の移動については、面会時やゆりの里便りでも伝えている。利用料の支払いは直接ホームに持参してもらい近況の説明や、出納簿の確認の機会としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱はあるが、投函しづらいと思われるため、無記名でアンケートを実施し、会議で報告・検討している。内容は家族会で報告し運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は併設の小規模多機能施設との間で実施。併設施設と普段から利用者・職員の交流があり最小限にダメージを防ぐように配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度はホーム開設年度でもあり、代表者が研修内容を把握するため出席していた。今年度からは職員及びパート職員が、県人材研修センターの経験年数に応じた研修に年間を通じて参加する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡協議会に加入し、「使いやすい書類」等、交流を通じて情報交換を行い、施設内で研修報告を行ないサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「お帰りなさい」と、先ず小規模多機能施設で「居心地のよい家」になるように、言葉かけだけでなく、その方に寄り添うような関係づくりをして、利用者が「ここならいいわ」と納得されてからホームに入居されるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職歴などの情報を得て計算問題を準備したり、また、洗濯ものたたみなど得意分野で力を出してもらい、職員は感謝の気持ちを伝えている。中には甲高に叫ばれる方に対しても、職歴から職員は状況を理解して穏やかに対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向が把握困難な方に対しては、その方の入居前の地域環境を訪ね、地域の人々から話を伺ったりして把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、ケース記録から、必要な支援を介護計画の中に盛り込んで介護職員、家族の意見を取り入れ検討し介護計画を作成している。	○	今後、様々な情報をカンファレンスを通じてひとつにまとめ、統一したサービスの提供への取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3か月に1回、見直しが行われている。連絡ノートに記載されている家族からの要望、職員の気づきを計画作成担当者が拾い上げて、介護計画に盛り込んでいる。記録物を一本化にする工夫が重ねられている。	○	連絡ノートに家族からの介護計画についての希望や、排泄記録はあるが、職員によっては受け取り方が異なったりして、介護計画のプランに十分反映されてないので今後検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能施設の利用者と日常的にレクリエーション等の交流を行なっている。利用者と一緒に近所まで煙草を買いに行ったり、買い出しに行ったりした時、ホームを理解していただくため広報を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医を受診している。受診時は、家族と看護職員と一緒に受診し、家族だけの時は情報提供書を作成している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期についての希望を確認している。ホームでの看取りを行ったことがあり、この時は家族、医師、職員との話し合いを繰り返し行い、意思確認書を作成しかかりつけ医と往診できる協力医療機関との連携を行なった。このことにより今後も家族等の要望に対応して行く方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時の個人情報保護の誓約を日々守るようにし、本人を尊重した呼び方や対応をしている。職員は、物を何回となく移動されている利用者「物を移動させてくれてありがとう」と穏やかな口調で感謝の言葉をかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は利用者のペースでゆっくりと食べられるように設定されている。食後も面会の家族の方と他の利用者が日常会話しやすいように職員が声かけ支援している。利用者との何気ない会話の中から希望を引き出しドライブにつなげたり、利用者の楽しみを引き出す工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に旬のさやいんげんを取り入れたりして季節に合ったメニューの工夫をしている。また、職員と一緒に食事をしていないが、後で同じメニューを食べ、味付け具合、具の大きさ、魚の骨の扱いなどの改善につなげている。調理専門の職員がいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	聞き取りシートにより、入浴の好み・体調・その日の気分に応じて支援を行なっている。安全のため昼間の入浴である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの農園で採れた野菜などを利用者と一緒に収穫・皮むき・調理をしている。洗濯ものたたみを一緒に行って、役割、喜び楽しみ作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望でホーム入居後、空家になった家に月に2日仏壇のお花の取り換えに職員と一緒に出かけたりして、本人の気持ちによりそった支援が行われている。また、ホームの農園、ドライブ、散歩に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関は車道に面しているが、日中は居室や玄関の鍵はかけられていない。利用者が外に出て行かれる時は一緒に散歩をしている。ホーム内は併設の小規模多機能施設と日常的に行き来できるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を地域住民にも事前に張り紙でお知らせし、参加協力を得て、年2回、小規模多機能施設と合同で地域・消防団と一緒にしている。1回は利用者も参加。災害時の持ち出し物・誘導等のマニュアルは作ってある。津波危険圏域であり地震時の避難訓練等も検討予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員分の食事・水分摂取量が一目瞭然にわかるような記録がされている。献立の内容について、定期的に管理栄養士のアドバイスを貰っている。月1回給食検討会をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは自然採光で明るい。小規模多機能施設とホームの間の坪庭にはゆりが植えてあり季節感が感じられ、また、ソーマン流しの台もあり話題作りにも一役かっている。壁には花の写真、観葉植物が飾ってあり居心地のよい空間となっている。食後も利用者はテーブルに座ってのんびりされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた机等が持ち込まれ居心地の良い居室に工夫されている。		